

- 13 色々な人が出てくる。落語^{らくご}家は、その人たちの言葉^{ことば}を全部^{ぜんぶ}
14 ひとりで言う。話がとてもおもしろいから、客^{きやく}は大笑い^{おおわら}
15 する。

Vragen

1. Waarom heeft een *rakugo*-verteller altijd een waaier en een doekje bij zich?
2. Als *rakugo*-verteller moet je een veelzijdig acteur zijn. Welke reden geeft de tekst daarvoor?

時そば

- 1 ある冬の夜の事です。男が暗い道を歩いていまし
2 た。「お腹^{なか}がすいたなあ。そば食べたいなあ」そのころ、道
3 にそばを売っている屋台^{やたい}¹がありました。そばは一杯^{いっぱい}、十六
4 文^{もん}でした。「文^{もん}」は、そのころのお金です。
5 「おい、そば屋」
6 「いらっしゃいませ。寒い^{さむ}ですね」
7 「そば、一杯^{さむ}。寒いから、早くしてくれ²」
8 「はい。...お待たせしました³」
9 「これは早い！寒い^{さむ}ときに熱い^{あつ}そばはうれしいなあ。い
10 ただきます」
11 （ズルズルズル...）
12 「うまい。こんなにおいしいそばは食べたことがない」

¹‘(eet) stalletje’

²くれ is de imperatief van くれる

³‘Dank u voor het wachten.’